



学習評価で大切にしたいこと

単元を見通した学習評価

単元における学習問題を設定して資料等で調べ、社会的事象の特色を考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、社会生活に生かそうとする態度を養います。そのため、単元を見通した目標と評価規準を設定することが重要になります。

学習状況を把握し、指導に生かす評価

評価場面では、記録に残すだけでなく、資料から複数の情報を読み取ることはできるが個々の社会的事象を関連付けて考えることに課題がある等の学習状況を把握することが大切です。教師はその上で児童を支援します。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで評価の基本的な枠組みを捉えることができます。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元で中心的に扱う指導事項を位置付けていきます。なお、小学校社会科では、学習指導要領の特徴から「内容のまとめり」をそのまま「単元」と捉えることができます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して、社会生活について理解しているとともに、様々な資料や調査活動を通して、情報を適切に調べまとめている。	社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを適切に表現したりしている。	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を設定する際、下記の視点を踏まえ、単元の目標や学習内容等に応じて設定します。

- I 知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等を身に付けることに向け粘り強い取組を行おうとする側面
- II 粘り強い取組を行う中で自らの学習を調整しようとする側面

第3学年「事故や事件から人々の安全を守る」

単元の 評価規準例	
	①地域の安全を守る働きについて予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして(II)、学習問題を追究し、解決しようとしている(I)。 ②学習したことを基に地域の安全を守るために自分たちができていることを考えようとしている。※単元によっては、①のみの場合もあります。

Point

「単元の評価規準例」の②については、選択・判断したり、発展について考えたりする内容に関連する単元で設定します。例えば、第3学年「市の様子の移り変わり」や、第5学年「我が国の工業生産」の単元設定が考えられます。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

学習問題の解決に向け、必要な情報を集め、読み取り、社会的事象の様子について具体的に理解しているか、また、調べた内容を文等にまとめ、社会的事象の特色や意味を理解しているか、という学習状況を捉え、評価します。

思考・判断・表現

社会的事象から学習問題を見だし、比較したり関連付けたりしながら社会的事象の特色や意味について考えているか、また、社会への関わり方を選択・判断したりしているか等の学習状況を捉え、評価します。

主体的に学習に取り組む態度

社会的事象について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究・解決しようとしているか、また、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしているかという学習状況を捉え、評価します。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 努力を要する状況の児童への支援

資料から必要な情報の読み取りや、社会的事象の意味の理解等の学習状況を見取り、十分に理解できていない状況にある児童には、支援を行うことが大切です。

2 記録に残す評価場面の設定

「思考・判断・表現」であれば、個々の社会的事象を関連付けて考える場面をメモする等、それぞれの観点で児童の姿が最も見取りやすい時間に評価を位置付けます。

(例) 第3学年「地域の安全を守る働き」の授業 ◇ 単元名 「事故や事件から人々の安全を守る」

◇ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①警察の活動について必要な情報を集め、読み取って理解している。 ②警察は、地域の安全を守るために関係機関や地域の人々と協力し、様々な活動を行っていることを理解している。	①警察の緊急時への対応に着目し、警察や関係機関の諸活動について関連付けて考えている。 ②学習したことを基に、地域や自分自身を守るためにできることを考えたり、選択・判断したりしている。	①地域の安全を守る働きについて予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に地域の安全を守るために自分たちができることを考えようとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全9時間)

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
2	・警察がどのような仕事をしているか理解できるようにする。	知	1	[知・技①] (ノート) ・警察の活動について資料を基に必要な情報を集め、読み取って理解している。
4	・交通事故が起きた時の、警察や関係機関の働きについて考える。	思	○	[思・判・表①] (ワークシート) ・警察の緊急時への対応に着目し、警察や関係機関の諸活動について関連付けて考えている。
6	・事故や事件から安全を守る人々の働きについてまとめることができるようにする。	知	○	本時 [知・技②] (ノート) ・警察は関係機関や地域の人々と協力し、地域の安全を守るため様々な活動を行っていることを理解している。
8	・単元の学習を基に、地域の安全を守るため自分たちができることを考える。	主	○	[主②] (ワークシート) ・学習したことを基に、地域の安全を守るため自分たちができることを考えようとしている。

指導に生かす評価

資料の読み取りに困難がある場合は、グラフの一部を拡大する、資料の情報量を減らして提示する、ヒントカードを示す等が考えられます。

記録に残す評価

警察や関係機関の資料を用意し、それぞれの活動を関連付ける場面を設定し、児童の特徴等をメモする等、全児童の学習状況を記録します。

*例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例 [知・技②]

警察と関係機関の活動に着目し、「交通事故が起きたら、警察が中心となって消防署と連携して事件や事故に対応したり、地域の人々と協力してパトロールをしたりしている」等について記述している。

Point

具体的な児童の姿を設定するために

学習内容に沿った資料を準備し、児童の社会的事象に対する気付き等の記述内容を予想しながら授業づくりを行います。

評価方法の例

- ・社会的事象が起こった原因と結果について、根拠を挙げながら表現しているか等が分かる記述
- ・必要な情報を収集し、まとめているか等が分かる記述



学習評価で大切にしたいこと

単元を見通した学習評価

社会科では、単元のまとまりを見通して学習課題を設定し、資料等を調べ、多面的・多角的に考察したり、選択・判断したりしながら、学習課題を追究・解決します。そのため、単元を見通した目標や評価規準を設定することが重要になります。

学習改善へ向けた評価

生徒に学習の見通しをもたせるため、社会的事象についてどのような記述があればどう評価するか等、評価の方針や方法を生徒に事前に伝え、それを生徒の学習改善につなげることが大切です。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、次に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで評価の基本的な枠組みを捉えることができます。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元で中心的に扱う指導事項を位置付けていきます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。

中学校社会科は、中項目を内容のまとまりとします。そのため、「内容のまとまりごとの評価規準」を単元の評価規準とすることが基本になります。しかし、単元によっては、「内容のまとまりごとの評価規準」を基にして、小項目を単元とする場合も考えられます。

C 日本の様々な地域 (3) 日本の諸地域	大項目 中項目 小項目
①中国・四国地方 ②中部地方 等	

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を設定する際、下記の視点を踏まえ、単元の目標や学習内容等に応じて設定します。

- I 知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等を身に付けることに向け粘り強い取組を行おうとする側面
- II 粘り強い取組を行う中で自らの学習を調整しようとする側面

Point

「単元の評価規準例」には、(I)と(II)の2つの側面を位置付け、「課題を主体的に追究しようとしている」としています。

第2学年 地理的分野「C 日本の様々な地域(3)日本の諸地域」(中部地方)

単元の 評価規準例	中部地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている(I)(II)。
--------------	--

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

地名や歴史上の人物等の語句を暗記していることだけを評価するではありません。社会的事象を自分事として捉え、既習の知識及び技能と関連付けて理解し、社会生活の場面での活用につながる知識や技能となっているかを評価します。

思考・判断・表現

社会的事象から学習課題を見だし、比較したり関連付けたり総合したりしながら社会的事象の特色や意義を考えているか、また、学習内容を自分事として捉え、社会への関わり方を選択・判断したりして表現しているか等の学習状況を捉え、評価します。

主体的に学習に取り組む態度

社会的事象について、学習課題を主体的に追究・解決しているかを評価します。例えば日本の漁獲量についてまとめた表を作成する場合、作成方法等について試行錯誤しながら主体的に進めているか等の学習状況を捉え、評価します。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 評価内容・方法の明確化

知識・技能を評価する場合、資料等から何を読み取ってまとめ、社会的事象について何をどのように理解していればよいのか、それをどのような方法で見取るか等を明確にします。

2 記録に残す評価場面の設定

単元の学習過程を踏まえ、記録に残す評価場面を設定します。例えば、学習課題を追究し、社会的事象を比較したり関連付けたりする等、生徒の姿が最も見取りやすい時間に位置付けます。

(例) 地理的分野「C 日本の様々な地域 (3) 日本の諸地域」の授業 ◇ 単元名「中部地方」

◇ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①中部地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。 ②産業を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。	①中部地方において、産業を中核に設定した事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き等に注目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	①中部地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全5時間)

時	主な学習活動	重点	記録	1	評価規準・評価方法
2	・中部地方について、その地域的特色や地域の課題を理解する。	知			[知・技①] (ノート) ・中部地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。
3	・中部地方の産業における特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解する。	知	○	2	[知・技②] (ノート) ・産業を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。
4	・資料を収集し、工業の発展の条件について読み取り、意見を交換して考えをまとめ、東海地区でなぜ工業が発達したのかという理由を考察する。	思	○	本時	[思・判・表①] (ワークシート) ・東海地域で工業が発達した理由について、地理的・歴史的条件等と関連付けながら考察し、表現している。
5	・中部地方の産業について、課題や解決策を主体的に追究する。	主	○		[主①] (発言・ワークシート) ・中部地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

指導に生かす評価

資料から必要な情報や全体的な傾向を読み取ることに困難がある場合は、複数の資料を示す、資料の一部を強調する、資料を読み取る視点を示す等が考えられます。

記録に残す評価

個々の社会的事象を比較したり関連付けたりしながら考察した記述を見取り、生徒の特徴をメモする等、全生徒の学習状況を記録します。

* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の生徒の姿

◇ 評価規準を生徒の姿で示した具体例 [思・判・表①]

東海地域で工業が発達した理由について、「濃尾平野が広がっていることから、工業用地が確保できる」、「近くに名古屋港があり高速道路等の交通網も発達していることから、製品の輸送に便利である」等、地理的条件と関連付けながら考察したことを、ワークシートに記述している。

Point

具体的な生徒の姿を設定するために

生徒の実態を把握し、どの資料をいつ提示し、社会的事象の何について捉えさせたいかを明確にして授業を行います。

評価方法の例

- ・社会的事象が起こった原因と結果について、根拠を挙げながら表現しているか等の記述
- ・地図、統計等の資料からどんな情報を読み取ったかが分かるノートやワークシートへの記述